

7/15 朝日

# 70歳以上の負担増 焦点

## 社保審 医療費抑制策を議論

厚生労働省は14日、膨らみ続ける医療費を抑制する議論を社会保障審議会（厚労相の諮問機関）の部会で始めた。70歳以上が支払う毎月の医療費の上限をどこまで引き上げるのかが最大の焦点。年末に結論がまとまれば、2017年度以降に実施していく。

この日の部会では、委員の望月篤・経団連社会保障委員会医療・介護改革部会長が「高額療養費制度は、世代間の公平性の観点からも早急に見直すべきだ」と指摘。一方で、70歳未満は住民税療費のうち上限を超えた自

厚生労働省は14日、膨らみ続ける医療費を抑制する議論を社会保障審議会（厚労相の諮問機関）の部会で始めた。70歳以上が支払う毎月の医療費の上限をどこまで引き上げるのかが最大の焦点。年末に結論がまとまれば、2017年度以降に実施していく。

この日の部会では、委員の望月篤・経団連社会保障委員会医療・介護改革部会長が「高額療養費制度は、世代間の公平性の観点からも早急に見直すべきだ」と指摘。一方で、70歳未満は住民税療費のうち上限を超えた自

■医療で負担増が検討される項目	
高額療養費制度の見直し（70歳以上の負担上限額の引き上げ）	かかりつけ医以外を受診した場合、新たな自己負担の導入
現行では、医療費が月100万円の場合、70歳以上なら現役並みの所得がある場合が上限だ。	入院時の光熱水費の患者負担を拡大
一方、70歳未満は住民税7千円を超えた分は払い戻し	金融資産を多く持つ患者の負担の引き上げ
	市販される薬は、病院で処方されても自己負担を引き上げ

5千円で、それ以外は所得に応じて約5万8千～約25万4千円を負担する。2013年度の医療費の総額は約40兆円で、10年前の1・3倍になった。高額療養費は13年度で約2兆2千億円で、10年前の1・7倍と伸びている。

技術の進歩で高額な医薬品が増えた影響などもあり、部会では日本医師会の松原謙二副会長が「高齢者が不安にならないように配慮して欲しい」と求めた。

今後、入院した際に使う光熱水費について患者の自己負担を拡大したり、市販薬に転用された薬は病院で処方されても自己負担を引き上げたりすることなども議論していく。

（生田大介）